

既に幾つかの他誌で取り上げられたテーマであるので、うまく編集できたかどうかと心配した。結果はご覧のとおり、執筆者によって一様ではないが、多くの論文が「胃と腸」らしい手法と発想に満ちあふれていると思う。

本号をみて気がついた点は、①実体顕微鏡所見と病理所見はよく対応する(多田論文、ただし工藤論文は未着)、②X線・内視鏡所見と実体顕微鏡所見、ルーペ像はうまく対応できない(平川ら、渡ら、平田ら、津田らの論文)、ということであろう。したがって、臨床所見と病理所見を一致させるには、②の点をどう解決するかが問題の

ようである。そういった意味で、“表面型”大腸癌の肉眼分類は、慎重に、そして従来の分類とは別の視点に立った検討が必要であろう。

そのほか、豊永論文は多くの微小sm癌の解析が表面型大腸癌の位置づけにどれほど重要かを具体的に示し、今後の目標を明らかにしている。

そして白壁先生の序説は、日本人の手による表面型大腸癌診断への思い入れが満ちあふれており、研究に最も大事なものはそれに注ぎ込む情熱であることを教えてくれる。本号を熟読された若い研究者が確固たる信念のもとに、新たな診断学への道を進まれることを期待する。

胃と腸

9月号(第27巻・第9号)予告

発売予定 9月25日
定価 1,957円(税込)

主題／逆流性食道炎を見直す

序 説	逆流性食道炎の診断を考える……………都立駒込病院・外	吉 田 操
主 題	逆流性食道炎の重症度分類への一提言……………千葉大・2外	神津 照雄・他
	X線所見による逆流性食道炎の重症度診断……………東大医大・消	山田 明義・他
	逆流性食道炎の重症度分類—病態生理学的観点から……………群馬大・1内	町田 守也・他
	逆流性食道炎の治癒経過—色素内視鏡による staging……………東海大・外	幕内 博康・他
	逆流性食道炎の治癒経過—staging: 電子内視鏡による観察所見に基づいて……………虎の門病院・消	星原 芳雄・他
主題研究	超音波内視鏡からみた逆流性食道炎の壁変化……………日大・3内	佐藤 博信・他
座 談 会	逆流性食道炎を見直す……………	神津照雄・川井啓市・他
今月の症例	1. 十二指腸腺管絨毛腺腫の1例……………九大・2内	黒木 文敏・他
	2. 外膜浸潤と著明な粘膜浮腫を呈したS状結腸癌の1例……………東大医大・消	馬場 理加・他
用語の使い方	bull's eye sign……………国立がん C・放診	牛 尾 恭 輔
使われ方	食道の小白斑……………都立駒込病院・外	吉 田 操

胃と腸 (第27巻 第8号)

編 集 早期胃癌研究会

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷 5-24-3

☎ 社内案内 (03) 3817-5600

本誌編集室直通 (03) 3817-5714

販売部直通 (03) 3817-5659

1992年8月25日発行(毎月25日発行)

1部定価 1,957円(本体 1,900円)(配送料 81円)

年ぎめ予約購読料 22,320円(本体 21,670円)

(送料弊社負担)

FAX (03) 3815-7802

振替口座 東京 7-96693 番

印 刷 所 永和印刷(株) ☎ (03) 3813-5001

広告取扱 医界弘報社 ☎ (03) 3814-5771

• Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo. © 1992. Printed in Japan.

• 本誌に掲載された著作物の複写・転載およびデータベースへの取り込みに関する許諾権は医学書院が保有しています。

• 無断で複写・複製・転載すると、著作権の侵害となることがありますので御注意下さい。

(担当) 窪田・渡邊・江口・長谷川